



# 取引所ニ於ケル仲買人ノ位置ヲ論ジテ「バイカイ」 問題ニ及ブ

河津, 暹

---

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 21(6):1155-1164

(Issue Date)

1916-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052623>



# 取引所ニ於ケル仲買人ノ位置ヲ論ジテ

## 「バイカイ」問題ニ及ブ

東京法科大学教授

法學博士

河

津

暹

### 一

近頃取引所仲買人ノナシタル「賣カイ」行爲ガ法律上有効ト認ムベキヤ否ヤノ問題ヲ生ジタ。大審院ガ之ヲ如何ニ決スルカハ未ダ窺ヒ知ルコトガ出來ナイガ、其ノ決定如何ニヨリテハ取引所仲買人ニ重大ナル影響ヲ生ズルハ勿論、取引所ノ盛衰ニモ關係スルコトデアラウカラ、取引所關係者ハ之ヲ重要視スルノデアル。予輩ハコ、ニ取引所仲買人ノ位置ヨリ筆ヲ起シテ同問題ニ對スル卑見ヲ披陳シテ見ヤウト思フノデアル。我國デハ法律ニテハ會員組織ノ取引所ト株式會社組織ノ取引所トヲ認メ、取引所法ニハ夫レ々々規定ヲ掲ゲテアルガ、會員組織ノモノハ株式會社組織ノモノニ比較シテ法規ガ嚴デアツテ投機取引ヲナスモノニトリテハ寧ロ不便デアルカラ、一二ノ小取引所ヲ除クノ外ハ之ニ由ルモノナク、我國ノ取引所ノ

組織ハ事實上株式會社組織デアルトイツテ差支ナイノデアル。取引所ノ如キ性質上公益ニ關係アル商業機關ヲ普通ノ商事會社ト同ジャウニ取扱フコトガ正當デアルカナキカハ立法論トシテハ議論ノ餘地ハアルガ、本問題ニ直接關係ガナイカラ暫ク措テ、コノ株式會社組織ノ取引所ニハ獨リ仲買人ノミガ出入取引ヲナスコトガ出來ルノデアル、取引所法第六條所デ明治十五年頃ノ制度ニテハ仲買人ガ自己ノ計算危險ニテ取引ヲナスコトガ許サレテキナイ、換言スレバ仲買人ハ他人ノ依頼ニ由ルニ非レバ賣買取引ヲナスコトヲ得ザルノデアル。然シコノ法文通りニ取引ガ行ハル、トスレバ、取引所ニ於テハ賣注文額ト買注文額トハ必シモ常ニ一致スベキモノデナイカラ、兎角注文ノ一部分ハ取引スルコトガ出來ナイデ之ヲ拒絶ヲシナケレバナラヌ從テ注文ヲナスモノニトリテハ甚ダ不便デアル、而モ仲買人ハ取引所ニ注文者ノ姓名ヲ通ズルノデナク自己ノ名義デ取引ヲナスノデアルカラ、事實上他人ノ依頼ヲ受ケテ取引スルモノカ、又ハ自己ノ計算危險デ取引スルノカ之ヲ判別スルコトガ出來ナイノデアルカラ、取引所法ニハ之ヲ改メテ仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハナイコト、ナシ、其ノ何レニアリトスルモ取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責ヲ負フコト、ナツテ

キル(第十二條、取引所ノ取引ハ大部分ハ匿名ノ取引者間ノ取引デハアルガ表面ハ仲買人ノ取引トシテ取引所ノ場ニ上ルノデアル、所デ我國ノ取引所ハ強制擔保ノ制ガアツテ取引所ノ場ニ上ツタ取引ニツキテハ取引所ハ證據金ヲ收ムル代リニハ若シ相手方が取引ノ履行ヲナスコトガ出來ナイ場合ニハ取引所ガ自ラ之レガ履行ノ任ニ當ルノデアル、此ノ説明ハ寧ろ法規ノ表面ノ説明デ、仲買人が賣買取引ノ契約ヲナシ、取引所ヲシテ之ヲ其帳簿ニ登錄セシメ、之ト同時ニ所定ノ證據金ヲ收ムル時ハ恰モ一取引ノ契約ニツキ取引所對買方ノ取引契約ト取引所對賣方ノ取引契約ガ成立シタルト同ジク、從テ賣方ト買方トノ取引關係ハ事實上消滅シタルニ當ル、從テ賣方モ買方モ相手方ノ同意ヲ經ルハ勿論通告スラナサズシテ轉賣買戻ヲナスコトヲ得ルナリ。更ニコノ取引關係ヲ約言セバ取引所ハ常ニ匿名ノ取引者ト取引ヲナスモノニシテ、而モ仲買人が表面匿名ノ取引者ノ代リニ取引所ニ對シテ一切ノ責任ヲ負擔スルノデアル。仲買人ハ取引所ニ對シテ一切ノ責任ヲ負擔スルノデアルカラ其點ヨリイヘバ其位置ハ甚ダ重イヤウデアルガ、其ハ適切ニイヘバ自己ノ危險計算ニ於テナシタ取引ニツイテイフコトデ、仲買人ノナス取引ノ大部分ハ匿名ノ取引者ノ依頼ニ應ジテナシタノデアルカラ正直ニ其ノ依頼通

リニ取引ヲナシタル場合ニハ、取引所ガ總テ契約ノ履行ヲ擔保スルノデアルカラ仲買人ハ何等ノ危險ヲ感ズルコトガナイ譯デアル、其ノ點カライヘバ仲買人ノ位置ハ甚ダ輕イトイハチバナラス。然ルニ仲買人ハ單ニ匿名ノ取引者ノ註文通リニ取引ヲナサヌコトアリ、又ハ仲買人自身ガ自己ノ危險計算デ、其ノ財産ノ許ス程度ヲ超エテ取引ヲナスカラ、數々破綻ヲ生ズルノデアル。仲買人ハ自己ノ危險計算ニ於テナスト、他ヨリ依頼ヲ受ケテナストヲ問ハズ、取引所ニ對シテハ表面ノ責任者デ、取引所ト匿名ノ取引者其者トハ全然關係ガナイノデアルカラ、仲買人ハ既ニ事實上或程度マデハ註文ノ玉ヲ取引所ノ場ニ上スコトモ、或ハ之ヲ場ニ上サズシテ懷合ニテ取引スルコトモ出來ル譯デアル、法律ハ吞行爲ヲ取引所税ノ逋脱トシテ之ヲ取締ルヤウニナツタカラ、吞行爲ハ大ニ減ジタニハ違ヒナイガ、全然之ヲ禁ズルコトガ出來タトハイフコトガ出來ヌ。予輩カライヘバ仲買人ノ位置ガ今日ノ如ク、取引者ト取引所トノ關係ガ今日ノ如クアル以上ハ吞行爲ハ如何ニ之ヲ取締ルトスルモ、或程度マデハ其目的ヲ達スルコトガ出來ルデアラウガ、充分ニ其ノ目的ヲ達スルコトハ不可能デアルト信ズルノデアル。故ニ吞行爲ガ取引所法違反ノ行爲デアツテ、經濟社會ニトリテ許ス可ラザルモノトスレバ、取引所ノ組織其物カラ

改メテバナラヌノデアル。

所デ、取引所ハ表面ハ仲買人ヲ相手ニシテ取引ノ履行ヲ擔保シテキル譯デア  
ルガ、仲買人ハ買方ヨリ註文ヲ受ケテ之ヲ場ニ上スコトモアルシ、又自己ノ危険計算  
ニ於テ之ヲナスコトモアルシ、之ト同時ニ賣方ヨリ註文ヲ受ケテ之ヲ場ニ上スコ  
トアリ又ハ自己ノ危険計算ニ於テ之ヲナスコトガアルカラ仲買人ハ同時ニ賣方  
竝ニ買方トシテ取引ヲ場ニ上セ、取引所ヲシテ登録セシムルコトガアル譯デア  
ル。同ジ仲買人ガ同時ニ賣方デモアリ買方デモアルコトハ一見不可思議ニ見エルガ  
仲買人ノ任務ハ匿名ノ取引者ヨリ受ケタル取引ヲ正直ニ取引所ノ場ニ傳達シテ  
契約ヲ成立セシムルニアル以上ハ毫モ怪シムニ足ラヌ譯デア  
ル。コノ事ニシテ不  
合理トイフナラバ仲買人ハ買註文ト賣註文トハ懷合ニテ結ビ付ケテ其ノ殘餘丈  
ヲ場ニ上セバヨイ譯デ其コソ吞行爲ヲ大ニ是認シナケレバナラヌコトニナル。果  
シテ然ラバ本來ノ意義ニ於ケル「賣カイ」即チ賣買雙方トモ一定ノ枚數ヲ同ジ場同  
ジ價格ニテ取引所ヲシテ登録セシムルコトハ合法合理トイハザルヲ得ヌノデア  
ル。コノ場合、取引所ガ賣買雙方ヲ同時ニ履行ヲ擔保スルカラ、危険ガナイトイフ理  
由デ證據金ヲ免除スルコトハ、取引ノ性質ヨリ見テ許ス可ラザルコトデ、タトヒ同

ジ仲買人が取扱ツタニモセヨ、賣方ト買方トハ全ク獨立セルモノト見テ、雙方ノ證據金ヲ徴セテバナラヌモノデアル。然ルニ單ニ取引所ノ計算ニ危險ガ伴ハヌカラトテ之ヲ寬大ニスル理由ガナイノデアルト信ズル。同ジ仲買人が賣ト買トヲ共ニ場ニ出シテ競賣買ニ掛ケ之ヲ取引所ノ帳簿ニ登録セシムル場合ハ合法デアルガ所謂「バイカイ」ト稱スルモノハ其ノ場合ニ限ラヌモノニテ、タトヒ取引所ヲシテ其ノ帳簿ニ登録セシメザルモ、賣ト買トヲ同數ニ同ジ場面ニ出ス場合、從テ、之レガ相手ヲ得ザル場合ニハ自己ノ出シタ玉ヲ附ケ合セテ取引ヲナシシムル場合モ、更ニ競賣買ノ結果、公定相場ガ生ジタ後ニ同ジ仲買人が賣買雙方ノ同數ヲ並ベテ登録セシムル場合モ亦「バイカイ」ト稱シテ居ルノデアル。前ノ場合ハ前ニ合法ナリト稱シタ場合ト異ル所ハ、取引所ノ帳簿ニ登録セシムル迄ニハ至ラヌノデアルシ、此ノ場合トテモ、相手方が顯ハルレバ立派ニ取組ガ出來ルノデアルシ、假リニ相手方が顯ハレザルニモセヨ、同ジ仲買人が異リタル方面ヨリノ依頼ヲ受ケテ場ニ賣ト買トヲ出シテキル譯ナノデ、取引所ノ取引トシテハ毫モ不合理ノコトハナイト信ズルノデアル。唯問題トナルベキノハ最後ノ場合ナノデ、既ニ競賣買ノ手續ガ完了シ從テ相手方ヲ得ベキ可能性ノナイ場合ニ同ジ仲買人が同數ノ賣ト買トヲ取引所ノ帳簿ニ登録セシムル場合デアル。一流ノ論者ハコレ等ノ玉ハ取引所ノ取引ノ本

態ヲナス競賣買ニ掛ケヌカラ、又掛ルコトガ事實不可能デアルカラ合法ニアラズト主張スルノデアル。然シ予輩ヲ以テ之ヲ見ルニ、競賣買トイフコトハ需要ト供給トヲ適合セシメテ、所謂公定相場ヲ作ル爲メニナスコトニテ特ニ板寄ノ方法ニテ之ヲナス場合ニハ、公定相場ガ確定スルマデニ仲買人カラ出ス玉ナルモノハ其實虛實相伴スルモノニテ、愈々相場ガ確定スル場合ニ其ノ賣ト買トノ差額ニツキテ責任ヲ負擔スレバ宜シイコトニナツテキル。シテ見レバ取引所ガ仲買人ノ虚々實實ノ取引申出ヲ初ヨリ是認シテキル譯デアルシ。法律モ同時ニ之ヲ認メテキルモノデアル。從テ仲買人ガ其殘玉ニ對シテ必ズ責任ヲ負擔スルカトイフニ、若シ指直其他ノ理由ニヨリ其ノ殘玉ノ一部ノ取引ヲ取消サンコトヲ希望スル時ハ之ヲ許スコトニナツテキル果シテ然ラバ、取引所ノ取引ハ必ズ競賣買ニ掛ケチバナラヌトイフヨリハ競賣買ハ需要ト供給トヲ適當ニ吻合シ從テ適當ナル價格ヲ作ル爲メニナスノデアルトイフヲ以テ穩當ナル見解トスルノデアル。其ノコトハ立法論トシテハ議論ノ餘地ハアルガ現行法規又ハ現行制度ノ下ニ於テハ甚シキ異論ハアルマイト信ズルノデアル。此ノ見解ニシテ幸ニ太過ナシトスレバ競賣買ノ手續ガ完了シタ後ニ於テモ其ノ確定シタ相場ニ於テ賣ト買トヲ同數ニ取組マセテ取引所ヲシテ登録セシムルコトモ亦合法ト認メチバナラヌト信ズル。論者ハ依頼者



ヨリカクノ如ク賣買ノ同數ノ玉ヲ同ジ仲買人ヨリ出ス筈ハナシト反駁スルカモ知レヌガ、一步ヲ讓ツテ依頼者ヨリ同ジ仲買人ニ賣買同數ノ註文ガ來ルコトナシトスルモ、我國ノ法規ノ上デハ前ニモ繰返シ論ジタル如ク仲買人ハ他人ヨリ依頼ヲ受ケタ玉ノミヲ場ニ上スモノニ非ズシテ、仲買人自身モ亦其ノ危険計算ニ於テ取引ヲナスコトガ出來ル筈デアルカラ、仲買人自身ガ相手トナツテ取組ヲナスコトハ之ヲ是認セザルヲ得ヌ、而モ其ノ公定相場ナルモノハ競賣買ノ結果、需要ト供給トガ投合シタ所デアツテ其ノ場合ニ於ケル最モ適當ノ價格ト稱シナケレバナラヌノデ其レ自身ニ於テ何等ノ害ヲ生ズベキ理由ガナイノデアアル。カクノ如ク觀察シテ來ルト「賣カイ」モ現行制度ノ下デハ之ヲ合法ト認メチバナラヌト信ズルノデアアル。カクノ如キ結果ヲ生ジテ來ルノハ畢竟仲買人ノ位置ガ上ニ陳ベタ如キモノデアアルカラデアアル。

## 二

以上ハ現行法規竝ニ制度ノ下ニ於テ所謂「バイカイ」ヲ合法行爲ト認メチバナラヌコトヲ略述シタモノデ、仲買人ト取引所トノ關係、仲買人ト賣買委託者トノ關係ガ上述ノ如キモノデアアル以上ハ「バイカイ」ヲ單獨ニ觀察シテ合法行爲ト不法行爲トノ限界ヲ定メントスルコトハ或ハ機械的ニハナシ得ルコトデアアルカモ知レヌ

ガ、機械的ニ限界ヲ定ムルコトハ便宜論デ、當業者等ヲ心服セシムルコトガ出來ルモノデナイ、從テ利ニ敏イ仲買人等ハ形式的ニ合法ニナス工夫ヲナシテ、巧ニ立法家又ハ法律家ノ意思ニ反シテ結果ヲ生ゼシムルコトハ毎ニ見聞スル所ナノデアル。何故ニ所謂「バイカイ」ガ競賣買ニ掛ケスカラ不法行爲デアルト指彈ヲサレタノデアルカトイフニ、畢竟仲買人ハ匿名ノ取引者ノ註文ヲ正直ニ場ニ上セテ競賣買ヲナシテ需要ト供給トヲ適當ニ一致セシメナイトイフコト、竝ニ仲買人が賣買雙方ノ同數ヲ取引所ノ帳簿ニ登錄セシメテ置イテ法律ニ許サル、轉賣買戻ノ特權ニヨリテ小口落等ヲ行ヒ時機ヲ見テ有利ナル位置ニ立タウトイフノデ、取引ヲナス當時ニハ首鼠兩端ノ態度ニ出デ、需要供給ヲ一致サス精神ニ悖テキルカラデアルト信ズルノデアル。然シ仲買人が取引ニツキテ全權ヲ掌握シ、而モ表面ノ取引者デアル以上ハ其ノ内部ノ關係ニ遡リテ之ヲ取締ルコトハ餘程困難デアルヤウデアル。若シ此種ノ行爲ガ取引所法ノ大精神ニ悖テキルトイフノナラ、仲買人ノ位置ヲ根本的ニ改ムルコトガ肝要デアアル。區々タル機械的ニ合法行爲ト不法行爲ノ限界ヲ立ツル如キハ實効ヲ收ムル所以デナイト信ズル。若シ仲買人ヲシテ匿名ノ取引者ニ代テ表面ノ取引者トナサシテ置クコトガ我國經濟社會ノ現狀ニ照シテ必要デアルノナラ、英國ノ制度ニ於ケル Broker ノ如ク單ニ匿名ノ取引者ノ註文

ヲ取引所ニ傳達スルノミデアツテ自己ノ計算危險ニ於テ取引ヲナサシメナイヤ  
ウニスルト同時ニ Jobber ノ制ヲ設ケテ彼等ノ間ニ於テ賣買シ、若クハ「ブローカー」  
ト賣買取引スルコト、スルノデアル「ジョバー」ハ賣價ト買價トノ差額ヲ以テ利益  
トシ「ブローカー」ハ單ニ手数料ヲ以テ其ノ利益トスルノデアル。其レデ取引所ガ強  
制的ニ契約ノ履行ヲ擔保スルト稱シテ匿名ノ取引者等ヲ相手ニ取引ヲナサシメ  
ザルコトニスレバ、勢ヒ事實上「ブローカー」ノ責任ハ重クナラザルヲ得ヌ。何者「ブ  
ローカー」ハ客筋ノ註文ヲ以テ「ジョバー」ト取引ヲシタル以上ハ其ノ「ジョバー」ニ對シ  
テ重大ナル責任ヲ負ハチバナラスコト、ナツテ、若シ契約ヲ履行スルコトガ出來  
ヌ曉ニハ自己ニ責任ヲ負ハチバナラスコトニナルカラ、濫リニ客筋カラ註文モ受  
ケヌデアラウシ、又客筋カラノ註文デアルトシテ自己ノ計算危險ニ於テ取引ヲナ  
スコトハ斷ジテ出來ヌ次第デアル、其ノコトヲ詳細ニ説クコトハ英國ノ制度ヲ繰  
返シテ説クコトニナルカラ省略スルガ、仲買人ノ位置ニシテ、名實共ニ責任ノ極メ  
テ重イモノトスレバ、所謂「バイカイ」問題ノ如キモノ、生ズル筈ガナイト信ズル。故  
ニ若シ此種ノ行爲ガ不法ニシテ取引所法ノ精神ニ背クモノトスルナラ、根本的ニ  
仲買人ノ位置ヲ改ムルコトガ肝要デアル。我司直ノ府ハ此點ニツキテ如何ニ考ヘ  
ラル、カハ後日ヲ期シテ再ビ論ズルコト、スル。